

学校名	福岡市立福翔高等学校	学校経営方針・学校教育方針	今年度の重点目標	評価 (総合)
学校長	ふりがな 氏名 福岡 哲朗	志を持ち、自らの目標を達成しようと努力する生徒と、意欲的・建設的に学校運営に参画する教職員の協働により、「熱意・気力」の校訓を具現化する学校をつくる。 そのために、すべての教職員が元気で生徒が安心して学べ、成長できる学習環境づくりと学力向上による進路実現をめざし、生徒に誇りと自信を持たせる教育活動を実践する。 また、市民からの期待と信頼をさらに高めるために、「福翔改革」を推進し、本校の新たな歴史を切り開く学校づくりを進める。	(1) 組織的な学校運営と危機管理の徹底: 「すべては生徒のために」を常に意識し、教職員のもっている力を結集して、各部・各教科等が連携し、組織的に生徒の指導や校務運営にあたり、日常的に危機意識をもち、起こりうることを想定しながら教育活動を行う。 (2) キャリア教育の推進: 総合学科高校として「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」及び「ジュニア・アチーブメント・プログラム (ジョブシャドウ・SCP・ミース)」に全教職員で組織的に取り組むとともに、SDGs チャレンジプロジェクト、キャリアデザイン等、キャリア教育の推進を図る。 (3) 希望進路の実現と部活動の活性化: 生徒の進路実現を最重点課題とし、ガイダンス機能の充実を図るとともに、各々の進路に応じた学力の定着を図る。部活動の活性化を推進する。(体制、実績、活動内容等) 教育活動を行う。 (4) 働き方改革の推進: 勤務時間を意識した働き方への転換や業務の見直しをはかり、生徒と向き合う時間、確保する。	学校自己評価 学校関係者評価
校長本校在任年数	1年			
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな 氏名 かわぐち みよじ 川口 三代次			

昨年度の成果と課題	【成果】①コロナ禍における工夫 (Googleクラスルームによる学習指導、生徒主体による文化祭・体育祭実施、オンライン生徒総会の学校行事実施)、②新学習指導要領にともなうカリキュラムの完成、③SDGsチャレンジプロジェクトの実施、④観点別評価の完成等。 【課題】①コロナ禍による経験を本年度に生かす (ICT機器活用によるハイブリット授業、HR、学校行事の効果的実践)、②サードステージ第2章の改善・発展、等
-----------	---

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程・学習指導	主体的・対話的で深い学びが得られるような授業改善を図る。また、オンライン学習構築にむけ、ICT機器を積極的に活用し、授業効果の改善を目指す。生徒の学習意欲を高めるとともに、個々の生徒の進路実現を目指す。	ICT機器を用いて、授業の効率化を目指し、深い学びを得られるような授業改善につなげる。 今回の新型コロナウイルスの感染防止に伴う長期に渡る休校措置や出席停止などに対応できるように教育指導体制を構築する。 大学入試の変更に伴い、教育課程を再編成する。観点別評価に即した授業アンケートの活用で、教員及び生徒の意識改革に努める。 特色化選抜入学者カルテを利用し、今年度も継続して、特色化選抜入学者の面談を行い、入試の改善につなげる。					
生徒指導	規範意識の高い生徒を育て、18歳から成人になる意識を持たせる。 「福翔高校いじめ防止基本方針」に基づき、総合的かつ効果的にいじめ防止を推進する。	自転車通学者に対し、登下校、駐輪、交通マナー指導を定期的に行い、主体的に行動できるようにさせる。 生徒には、その場に応じた挨拶や状況に応じた適切な行動を身につけさせ、学校外でも地域の方々に愛される態度を育成する。 定例の (月1回) 「いじめ防止対策委員会」とその事務局会 (週1回) において、未然防止、早期発見、早期解決等にあたる。 生徒がネットによる被害者・加害者にならぬよう、情報端末機器を適切に扱う力を身につけさせ、互いに認め、支えあう人間関係づくりを推進する。					
進路指導	生徒一人一人の進路保障を目指し、適切な指導・助言を行い、進路実現に向けて必要な力を身につけさせる。	生徒の進路保障のための課外や補習、ガイダンスなどを計画的に準備し、円滑に進める。 学年部と進路指導課の連携を強化し、進路指導課からの情報発信を積極的に行う。					
進路指導	キャリア教育の充実を図り、アグディンラーナーの育成を図る。	「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」を中心にキャリア教育を実施し、主体性・デザイン思考・アウトプットの3つの資質・能力を身につけさせ、生徒の学習への意識向上を図る。					
学校改革	サードステージ第2章を円滑に進めるとともに、キャリア教育を中心とした特色ある取り組み内容を積極的に発信する。 ・3本の矢の推進、充実・改善を図る。 ・福岡市授業推進モデル校として授業研究に取り組み成果を発信する。 ジュニアアチーブメントプログラムなどキャリア教育における取り組みを中心にホームルームや学校行事、授業などさまざまな場面でICTの利用を推進する。	希望進路実現のための取り組みを円滑に進める。また、「福翔サードステージ第2章 (3本の矢)」を進める。 授業推進モデル校として高大連携を活用し「総合的な探究の時間」の授業研究を行い、内容の充実を図る。また、取り組みの成果を研究大会で発信する。 GoogleclassroomやFormsなどGoogleワークスペースのソフトウェアを場面に合わせて効果的に活用しながらICTの体系化を図る。 ジュニア・アチーブメントプログラムにおいてICTの効果的活用を行い「SCPの活動充実」「SCP活動積極的発信」に努める。またアジア大会への参加を目指す。					
特活指導	ウイルス感染予防を講じながら通常の形態での学校行事を企画・運営し、これらの集団活動を通して、自主的・実践的な態度を育てる。 体育部・文化部の活動の更なる活性化を目指す。	文化祭・体育祭・予備会などの行事を、生徒会が中心となり、自主的な企画・運営ができるよう支援する。 自主的、主体性ある取り組みができるように指導・支援する。 定期的に部活動顧問会議を開き、規律ある一貫した指導ができるように意見交換、情報共有等に努める。 部活動加入率90%以上を目指し、部活動生が学校の真のリーダーとなるように研修を行い、育成する。					
保健環境美化	ウイルス感染症予防を徹底し、心身ともに健康的な学校生活を送ることができる力の育成を目指す。 身の回りや校舎内外に対する環境美化意識を持ち、心豊かに学校生活を送ることができるように支援する。	毎日の健康観察で生徒の体調及び出席状況の変化を把握する。配慮が必要な生徒には、いじめ防止対策委員会を中心に支援を行う。 防災避難訓練やAED及びEビベン研修を実施し、安全・安心な学校生活を支援する。 日々の清掃活動の中で、生徒会や保健委員を中心に適切なゴミ処理や資源ごみのリサイクルを推進していく。 コロナ禍の続く中ではあるが、可能な限りPTAと連携し、花いっぱい運動など、環境美化に努める。					
1学年	基本的な生活習慣を確立するとともに、自ら意欲的に学習に取り組ませる。 集団への帰属意識を高め、福翔生としてふさわしい態度を身につけさせる。	「産業社会と人間」の授業やホームルーム活動を通じて、自己の将来に向けて目標設定をさせ学習意欲を引き出す。 規則正しい学校生活を送らせるとともに、計画的・継続的に家庭学習に取り組ませる。 本校の伝統や校風を理解させ、高校生・福翔生としての意識を持たせるよう指導する。 集団への帰属意識を高め、学年団の和を育てる。また、安心して過ごすことのできる環境づくりに努める。					
2学年	基本的な生活習慣の確立とともに、落ち着いた学校生活のもと、文武両道に努めさせる。 学校行事に積極的に参加し、集団への所属意識を高めさせる。	あいさつ、時間厳守、自宅学習時間の確保を徹底し、文武両道に努める環境を作る。 進路目標を明確にし、自ら学ぶ姿勢を身につけ、計画的かつ継続的に学習に取り組む態度を養う。 各行事において、一人ひとりにリーダーシップと協力のあり方を理解させ、集団への所属意識を高めさせる。 研修旅行の意義を理解させ、積極的に参加する態度を促し、成長した姿や態度を実感させる。					
3学年	進路実現のために適切な進路指導を行う。 最高学年としての自覚を促し、後輩の示範となる言動を積極的に行わせる。	三者面談、二者面談を計画的、継続的に実施し、生徒個々の希望や実情に配慮した、適切な指導をめざす。 高い進路目標を持たせ、その実現のために、自立した態度を育成する。 学年目標である「勇猛果敢」な態度で困難に立ち向かって挑戦する気持ちを促し、後輩にも希望を与えるような空気を醸成する。 あいさつ・時間厳守を中心に、日常の中で随時指導し、自立した態度を身につけさせる。					
人権教育	本校が抱える人権に関する諸課題に対応する職員研修会を企画し、人権尊重の精神の涵養を目指し、人権が大切にされた環境を創造する取り組みを推進する。 教育相談活動の充実をはかり、実効的な活動を推進する。	人権教育全般の指導内容と方法を検証し、本校の抱える人権に関する諸課題に対応するよう改善を図っていく。 校内職員研修のさらなる充実にも努め、全教職員に自主的な研修を促す。 気になる生徒の早期把握と情報共有を推進し、sc・sswと連携して不登校等の生徒数を減らす。 進路指導教室の運営を通じて、全職員に特別支援教育の視点に立った教育活動の推進を図る。					

※ 学校自己評価は、5段階評価 (A…目標を大幅に上回る達成度、B…目標を上回る達成度、C…目標どおりの達成度、D…目標を下回る達成度、E…目標を大幅に下回る達成度) で成果や取り組み状況等について記入すること。
※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価 (A～E) で評価すること。